

長唄 伊勢参宮 昭和五年(1930年)

作詞 佐々木信綱

作曲 四代目 杵屋佐吉

〈本調子〉

ㄨ掛まくも

あやに畏しこき神路山

雲の白木綿 結び廻らし

大宮柱 太敷立てて

皇国守らす皇祖神

天の御影 日の御影

御影仰ぎて詣でくる

五十鈴の川の水清み

姿すがしき八処女が

手振りもゆかし倭舞



ㄨ神葉の

香をかぐわしみ

香しき 大々神楽の笏拍子

ㄨうつや 現に浮かびくる

昔の旅の道者連れ

春風 薫る菜の花に

胡蝶の夢と あこがるる

ㄨ宮川は 舟渡し

渡ればすすむる 土車

くるくく くるくく

来る人 皆は

菅の小笠に 竹の杖

〈三上り〉

ㄨ大阪はなれて はや玉造

ヨイヤサ これわいな

笠をめすなら 深江が名所

やあとこせ よーいやな

ありやりや これわいさ コノなんでもせ

ㄨ伊勢は湯の湯の 湯の山 紅葉

ヨイヤサ これわいな

不断桜は白子が名所

やあとこせ よーいやな

ありやりや これわいさ コノなんでもせ

ㄨ唄う声々 高倉山の

外宮の御前に ます祈る

五穀成就の御神徳

ㄨ歩みも軽ろし 足引の

山田と宇治の間の山

お杉、お玉が三味の音は

ベンベラ ベンベラ チャンチャラチャン

無性矢鱈に弾きたつる

二文、三文、五六文

投うればちやつと 顔ふり向け

縞さん、紺さん、中乗りさん

やてかんせ、投うらんせ

頬冠さん、焔襦さん、お江戸さん、上方さん

神のお庭の朝清め

するや籠の えいさら、えいさら えいさらさ

ソレ 殿中じゃ、張臂じゃ

やてかんせ 投うらんせ

踊る子供は手足振る

〈本調子〉

ㄨ古市の 奥ぞゆかしき伊勢音頭

琴に胡弓に三つの弦

きしめき上がる迫出しの

欄干 爛漫たり 花の顔ばせ

鼻高々とましますは

猿田彦の命かや

ㄨさる程に 宇治橋に着きて候

広き河原に投銭を すくう誓ひの網受や

お被町は右左

お寄んなさい お寄んなさい

火縄、土鈴、餅花も候ぞ

内儀様へは白粉に物差し

和子様へは

悦ばせらるるように 笙の笛

ㄨめでたう参宮 相済みて

朝熊、汐合、三津村や

清き渚の玉櫛笥

二見が浦の うらうらと

富士に朝日の紅模様

絵巻の松風 さざんざあ

浪の鼓も音そえて

シャンシャンシャンと しめ縄の

結び目かたき夫婦岩

ㄨ今は昔の筆草を

かき集めたる藻塩草

実にくさぐさの賑ひも

神の都の御栄えと

祝ひをさむる 歌の一と節

